

みんなで作ろう！「ユニバーサルデザインのまち」

■PPT 資料の流れ■

「ユニバーサルデザインのまち」

わたしたちの暮らすまちには、大人や子ども、お年寄りや身体の不自由な方、性別や話す言葉が違うなど、色々な人が生活している。年齢、性別、国籍などに関係なく、だれにとっても暮らしやすいまちにしていけることが大切である。

1. 「ユニバーサルデザインのまち」とは（スライド1～6）：

「ユニバーサルデザインのまち」についての紹介。ユニバーサルデザインとは「だれもが使いやすいようにモノやかたちをつくること」であり、「ユニバーサルデザインのまち」とは「だれもが使いやすく暮らしやすいまち」である。では、「だれもが」とは誰のことを指すのか。社会には、大人や子ども、高齢者や障がい者、性別や言語の異なる人など、様々な人が暮らしており、その全ての人のことを指している。全ての人のために使いやすいというのはとても難しい。しかし、まちはみんなのものなので、一部分の人々にとってのみ暮らしやすいものであってはならない。

2. 暮らしにおける「困った」（スライド7～13）：

みんなにとって暮らしやすいまちをつくるために、みんなが暮らしの中で困っていることを知ることが必要である。そこで、高齢者、障がい者、妊婦や赤ちゃん連れ、異なる言語を持つ人、児童（小学生）、などのグループの「困ること」を紹介する。まちはみんなのものなので、小学生も対象に含まれていることを自覚し、当事者意識を持つことが重要である。

3. まちなか解決事例（スライド14～26）：

様々な人の「困ること」に対して、街のなかではどのような工夫、対応をしているのかを紹介する。多目的トイレや筆談対応表示など特殊と思われる設備もあるが、電光掲示板やサインによる案内など、普段当たり前のように見ているもの、聞いているものも、異なる人々にとってはとても重要な設備・施設である。また、ユニバーサルデザインの自動販売機など、普段利用していながらなかなか気づきにくい工夫が施されているものもある。

4. 心づかい（スライド27～41）：

設備や施設を整えることは必要だが、それだけでは「ユニバーサルデザインのまち」にはならない。周りへの思いやりや気づかい、手伝いをする姿勢が重要である。車いす使用者、視覚障がい者、聴覚障がい者、妊婦や高齢者が困っている様子を見かけた際に、どのようにふるまうべきかを一緒に考え、「ゆずりあい」「声かけ」「手伝い」「心がけ」の心づかいの事例を紹介する。

5. まとめ（スライド42～44）：

「かたちの工夫」も大事ではあるが、周りに気を配り「心づかい」を行うこともユニバーサルデザインのまちをつくるためには重要であることを最後にまとめる。